



# 自治連だより

第24号



## 新年明けまして おめでとうございます

鳥取市自治連合会

会長 渡邊 勘治郎

会員の皆様には、平素より自治連活動に温かいご理解ご協力をいただき、また、各地区や町内会におかれましても、特色ある地域づくりにご尽力されており、敬意と感謝を申し上げる次第でございます。

昨年は、鳥取地方は大雨や大型台風の直撃は免れたものの、長雨も加わり住環境や農産物等に被害を与え、株価の上昇にも拘わらず上場企業に留保されるばかりで市民生活には反映されず、景気も中どまりといった状況の中を、本市の企業誘致は順調に進展しており、求人倍率も過去最高となり、県外からの移住者も年々増加するなど明るい話題も多く、十一月には、鳥取市新本庁舎の起工式が挙行されました。

本年四月には鳥取市が中核市に昇格し、本年中には鳥取道も全線開通となり、住みやすい田舎とされる鳥取市に移住者

が増え、住み続けたいという若者たちの増加も期待されるところです。

一方、若者の流出が続く中山間地域等では、高齢者等が伝来の農地や山林を守り続け、村や町を緑花で飾るなど生活環境の美化に努め、地域の絆をより強くするために各種イベント等を開催するなど、過疎の進むふるさとを守るために一丸となって努力されています。

地域の発展なくして地方創生はないといわれている今日、自分の地域の創生は、地元の発案なくしては良案が生まれませんと思います。そのためにも、村や町の自治会組織をより強化し、地域の存続と発展のために一体となって取り組むことが必要と思います。

終わりに、皆々様の益々のご繁栄をご祈念申し上げ、鳥取市自治連合会への変わらぬご理解ご協力をお願いいたします。また、年頭のご挨拶といたします。

### 美穂地区

## みんなに優しい まちづくりを めざして

美穂地区区長 竹森 貞美  
区長会長

美穂地区は、鳥取駅から西南約四km、鳥取道鳥取ICから南約二kmに位置し、県道鳥取河原線沿いに点在する十二集落で構成されています。

かつては、米の産地を象徴して「美穂」と名付けられたほどの自然豊かな純農村地帯でしたが、近年では休耕田や耕作放棄地が随所に見られるようになり、地区の人口は、昭和六十年をピークに、核家族化・少子高齢化が進展しています。

そこで、地域をよりよいものにしていくために、住民総参加で課題を抽出し、その課題解決に取り組むべく平成二十一年六月、美穂まちづくり協議会を結成しました。

その後策定した「美穂まちづくり計画」では「みんなに優しいまちづくり」を主要計画として掲げ、その一



カフェサロン

環として地区公民館に「カフェサロン」を毎月七回開催し、年間約一、〇〇〇名が親しく交流しています。

毎年夏に行う「納涼集う会」では、参加者全員でオリジナルの「美穂小唄」を一齐に踊り、賑わい、自前焼きそば、農産物販売など、地域全体で役割分担し、三〇〇名以上の参加者で盛り上がります。

そのほか、健康ウォークラリーや健康講座の開設など、健康づくりの推進に努め、緑豊かな環境を生かしたまちづくりでは、耕作放棄地の生産組合による管理・生産体制の確立や、ゴミ不法投棄監視強化、道路周辺、公園の草刈りなど、活力ある農業と地域の美化に努めています。

さらに、交通事故防止の啓発活動、集落単位に避難場所を設定、地区総合防災訓練の実施や防犯パトロールの実施により地域の安全・安心を図っています。

今後とも、区長会を始めとする各種団体が連携を深め、地域の特性を生かしてみんなに優しいまちづくりをめざしていきたいと考えています。



納涼集う会

### 城北地区

元気で楽しく心地よく  
住んで良かったと  
実感できる城北へ!!

城北まちづくり協議会  
会長 吉田 正人

城北地区公民館を核として各種団体(二十団体)は独自の憲法(協議会規約)を持ち住民力で事業を進めています。

城北まちづくりは、その一端を担っています。

#### (一) 概要

活動年数：平成二十一年一月から発足し現在に至る  
住民数：二十一町内会

一〇、一八〇名 二、二四一世帯

#### (二) 活動地域

城北地区は北を千代川、以東と以西を結ぶ国道九号線東を旧袋川、西を一級河川である千代川に挟まれています。地域内は南北に国道五三三線、東西に県道三一八号線が通っており、住宅地、集落を抱えると共に企業活動も活発な地区であります。

#### (三) 組織

総務広報部会、福祉健康部会、環境安全部会、文化交流部会の四部会で構成しています。

(四) 城北まちづくりの目指すもの  
魅力のある住み良いまちづくり

くりを推進するために市と連携してまちづくり計画の策定及びその推進を図ることにあります。

城北まちづくりいきいきプランを第一弾、第二弾と全戸に冊子(A4判)を配布しており、これの実現のために四部会はそれぞれ特色のある事業を精力的に協働による成果を挙げるべく施策に努めております。

(五) 城北まちづくりの特色  
○中山間地域支援事業は三ヶ年経過後も継続事業として無理の無い程度で青谷町日置地区と交流事業を進めています。

○むら・まち・支え合い共生促進事業に地子連、青少年育成と連携して佐治町福園地区と農山村集落の地域資源活動の支援交流をしています。

○集団健診は受診率の向上と健康づくりや予防の講演会で健康寿命の延伸を図る活動を実施しています。この活動が認められ鳥取県知事より「鳥取県頑張る住民自治活動団体」として受賞しました。



集団健診実施

#### (六) 組織活動

##### 【総務広報部会】

複合施設建設の促進と連携した協議 地域シンボルマーク作成 地域づくり懇談会 研修

##### 【福祉健康部会】

集団健診 健康講演会 高齢者グラウンドゴルフ大会 健康啓発チラシ作成等

##### 【環境安全部会】

防災マップ看板設置 スクールゾーンマップ製作 ケヤキ通りの環境整備

##### 【文化交流部会】

あいさつ標語看板設置 あいさつのぼり旗製作 青谷町日置地区との交流 佐治町福園との支援交流



あいさつ標語看板設置

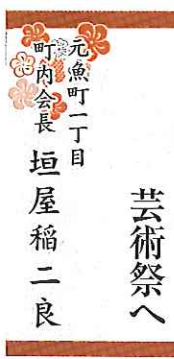
#### (七) 旧鳥取警察署跡地への公民館・保育園等複合施設建設促進

第十次鳥取市総合計画に公民館、保育園が移転新築として盛り込まれました。将来に禍根を残さないように城北公民館・城北保育園等複合施設建設検討委員会を立ち上げ(四十四名) 大計作りに全力投球しています。これまでに役員会議十回、全体会議十回を開催し、課題も山積してお

り、交通アクセスの改善を一つとつても警察署への請願、国交省鳥取河川国道事務所への請願等、政策企画課、協働推進課、こども家庭課、財産経営課と協議を重ね道半ばですが、長年に亘る地域の強い要望も手の届く所まで来ました。建設検討委員会を始めとして地域の力強いご支援を頂き心より厚く感謝申し上げます。

### 遷喬地区

あんどん  
行灯作りから  
芸術祭へ



元魚町二丁目  
町内会長 垣屋稲二良

ある年の町内会総会で「この町内は、聖さんの山車もなし、みんなが集う機会がないなあ。」という声がありました。それから町内を活性化させたいという気運が盛り上がり、行政の活性化補助事業を活用して、町民が集まる機会をつくることができました。

町内には、様々な特技・才能の持ち主がおられます。それぞれの持ち味を發揮してもらおうことの話し合いは弾み、色々なアイデアも出ました。最初に取り組んだのは、行灯作りです。建具屋さんの

出番で、設計・段取りをしていただき、みんなで組立の手伝い、障子張りなどをしました。年一回のメンテナンスとしてずっと続いていきます。



芸術祭のひとこま

次に、芸術家の多い元魚町ならではの「芸術祭」を企画しました。テーマを決めてみんなで作り上げようと町内あがての隔年開催の恒例事業となっています。抹茶・珈琲カフェのお菓子は、町内の人の手作りです。みんなが集っての作業は、楽しいものです。町内の歴史を紐解いたときには、昔の町の賑わいを紹介する録音取りに、各家庭を回り、声での出演をしてもらいました。こんな取り組みが、大人から子どもまで町内一人ひとりの絆を強めるのに役立ちました。

継続は大変ですが、町内のみんなで作りに上げる行事は、町内会一人ひとりのつながりを確かかにしてくと感じると感じています。



お茶席のお菓子作り

松保地区

地域づくりの活性化をめざして

松保地区区長協議会  
会長 森 本 正 一

「松保地域づくり協議会」は、五つの部門（生涯学習部、体育部、総務広報部、福祉部、生活安全部）をもって構成されておりですが、人権学習、体育行事、福祉ボランティア活動、防災意識啓発、防犯や環境パトロール等々、各部門が担当する行事や活動に取り組んでいます。

その中のひとつ「生活・安全部」の活動について紹介したいと思います。

近年、大災害が日本各地で頻繁に発生しています。大地震に大津波、大型台風にゲリラ豪雨、そのたびに甚大な被害が発生し、貴重な人命が失われ、文明が自然の猛威に打



防災フェスタ

人間は打

ち勝つことは出来ません。災害を最小限に食い止める、身の安全を守るためにも日ごろから地域住民の防災への関心を高めていく必要があります。このような取り組みを実施しました。

八神戸防災未来センターへの視察研修

九月二日（土）神戸市にあるセンターへ三十九名の参加により実施しました。早速に行く道中の車内で、DVD「東北大震災」を視聴しましたが、三陸大津波の衝撃的な映像に全員が見入っていました。また、防災センターでは神戸・淡路大地震の惨状や教訓を映像や熱心な語部の説明に聞き入り、災害の怖さや防災への備えについて認識を深めました。

△防災を目指す裏山診断の取り組み

九月十日（日）「防災の日」にちなみ、研究者・行政・地区防災会関係者ら三十名が参加し、地区内五か所の裏山を現地診断しました。オリエンテーションの後、現地に向き裏山の現状を確認し、状況分析等の説明を受けました。今後、防災力向上に向け研修に取り組みを確認し終了しました。

△自主防災フェスタの開催

十月二十九日（日）第八回松保地区防災フェスタを約一七〇名の参加のもとに開催しました。



防災リーダー研修会

あいにくの雨天で、会場を屋内に変更したため内容の一部変更を余儀なくされましたが、消防署や赤十字の協力もいただき、防災用具の展示や救命処置の学習、炊き出しやサバイバル食料の作り方などを体験しました。

「松保地域づくり協議会」も発足して八年が経過し、事業によっては活動の形骸化、参加意識の希薄、部門間の取り組み格差、組織の縦割化や連携不足等、課題として上がってきています。

そうした課題を乗り越えるため、今年度は四回にわたり検討を重ねてきました。新年度からは、定例的に役員会を開催し部門間の疎通を深め、意見交換や事業の実施検証等を行い、地域づくりの活動活性化を目指し取り組んでいくことにしています。

平成二十九年 町内会長研修会

町内会長研修会

平成二十九年度の町内会長研修会は、いま大人気の鳥取市出身力士土浦関の父親であり、鳥取城北高等学校校長石浦外喜義先生を講師にお迎えし「相撲道を通しての人材育成」を演題にご講演いただきました。先生は、鳥取城北高校相撲部総監督として、相撲指導三十一年、全国屈指の強豪校へ導かれました。

先生が相撲を始められたのは、高校に入学されてから、何気なく相撲場に立ち寄ったのがきっかけだったそうです。当時、体重は五十五kgしかなく体力差・経験差を痛いほど感じながらの相撲との出会いとスタートでしたが、努力の甲斐あって、高校三年時には、インターハイ団体二位、東西対抗大会軽量級準優勝という実績を残して日本大学へ進学されました。高校・大学と尊敬する二人の師がいたからこそ今の自分があり、指導者としての礎になっているそうです。

四股だけを踏んでいる中で、監督への不信任はなく、自分を信じ、監督を信じてがむしゃらになることが出来たそうです。子どもには無限の可能性があり、信じられない力を発揮する場面があるはずで、いかにその子どもの力を伸ばしてやることのできるかが、指導者の力量となってくる。昔の自分の稽古法に固執せず、今の子どもの生活環境や体格などに見合った指導法を編み出していく必要があるそうです。ご講演ありがとうございました。鳥取城北高等学校相撲部の、今後、益々のご活躍を祈念いたします。

（文責 土橋周美）



稲葉山地区

みんなで楽しい  
野菜づくり

稲葉山まちづくり協議会  
事務局 高須 廣海



稲葉山地区のまちづくり協議会では地区三大事業の運動会・敬老会・文化祭を地区自治会から移管した形で活動していますが、農村と住宅が隣り合う地域の特性を活かし、「農住いきいき交流会」事業を数年前から立ち上げました。米作りでは農家の力と田んぼを借り田植え、稲刈り、脱穀に汗をかき、手作業でやります。また、今年から空き農地を提供頂き、地域の仲間とトマト、きゅうり、なす、ピーマン等々の野菜作りに挑戦し大成功でした。成果物の一部はタイミングが合えば公民館での料理事業や食事サー



農住いきいき交流会

ビスにも使ってもらっています。田や畑での作業を通じ農業との親睦、わいわいがやがやの仲間づくり、また美味しいお米や野菜も味わえる楽しい事業です。地区の特性を生かした事業として継続していきたいと考えています。

明徳地区

明徳地区の  
まちづくり

明徳地区まちづくり協議会  
会長 土橋 周美

明徳地区は、鳥取駅の西側に広がる市街地に位置し、昭和二十四年に日進、富桑、美保小学校より分離独立して、

明徳小学校が設置されたことに伴い誕生した地区です。

明徳地区では、これからの明徳地区のまちづくり活性化を図るため、次のような目標を柱として、平成二十一年八月二十四日まちづくり協議会を立ち上げました。

(一) 基本理念

\* 心豊かで安全・安心なまち明徳地区

(二) 基本方針

\* 誰もが心豊かで、住んでよかつたといえる地域づくり

\* ふれあいと絆にあふれた地域づくり

\* 人々が共に支え愛、安全で安心な暮らしができる地域づくり

(三) 実施体制

\* 会の名称を「元気で輝く明徳地区協議会」という。

\* 具体的な取り組みの体制として、五つの専門部会を設置する。

- ① 人づくり部会
  - ② 安全・安心部会
  - ③ 健康・体育部会
  - ④ 環境・美化部会
  - ⑤ 文化・伝承部会
- これらを基に、第一次明徳地区活性化計画書を策定し各種事業を展開してきましたが、この策定期間が平成



ふれあいウォーク

二十七年三月三十一日までとなっていたため、第二次の(平成二十八年〜平成三十三年三月)活性化計画書を策定しました。

現在は、この計画書に基づき活動を実施しています。

① 人づくり部会

・ 小学校児童による、「あいさつ運動」の標語募集

・ 地区住民主体による、「納涼祭」の実施

・ 安全・安心部会

・ 自主防災会主催による「総合防災訓練」の実施

・ 自主防災会による、「防災マップ」の作成

③ 環境・美化部会

・ 部員による、小学校の草取り及び児童との花壇づくり

・ 文化祭に向けての花づくりの実施

④ 健康・体育部会

・ 明徳小学校と地区住民との「合同運動会」の実施

・ 健康ウォークマップによる地区住民のウォーク大会の実施

・ 健康づくりの一環として、毎週一回のシャンシャン体操の実施

⑤ 文化・伝承部会

・ 地区住民主体による「文化祭」の実施

・ 地区住民が気軽に楽しめる「明徳音頭」の作成により、運動会などで児童と地区住民が一緒に踊りを披露している。

以上が明徳地区まちづくりの活動状況ですが、特に当地区としては「納涼祭」「運動会」「文化祭」を地区の三大事業として定着させており、地区住民同士の楽しみとなっています。



文化祭



文化祭

岩倉地区は、昭和五十六年四月、小学校区の編成替えにより稲葉山と面影両小学校の一部を合わせて岩倉小学校が新設され、これに伴い七月に岩倉地区公民館が開設、地区としての活動を開始しました。地区の世帯数は約二、三〇〇ですが、現在でも住宅団地の造成が進み、人口も急速に増加しつつあります。また、市

**岩倉地区**

岩倉地区まちづくり協議会  
会長 山添 英明

**住民総参加の活動**

民生活に必要なショッピングタウンや医療機関なども新設され、住みよい町に大変身を続けています。

まちづくり協議会は、各地区と同様、鳥取市の働きかけにより平成二十二年に発足、以来岩倉地区の主な諸行事、諸活動は公民館を拠点にまちづくり協議会が中心になって推進しています。

体制は、自治会、社会福祉協議会、民生児童委員協議会、体育協会、老人クラブ連合会、子ども育成協議会、交通安全協会、青少年育成協議会、人権教育推進協議会、ぞうさんの会、ボランティアサークルと東中学校、岩倉小学校、かろん保育園で構成されています。年間行事も沢山あり、その都度、役員が協議を重ね、計画、運営に当たっています。岩倉小学校の児童の登下校時には保護者や地域住民が学校周辺や交差点で見守り活動を行い、また、週に三〜四回広報車（青パト）で巡回し犯罪や事故防止に当たっています。敬老会は毎年一回、地域芸能の披露や保育園小学校、中学校のみなさんも芸能参加し、高齢者と地域住民との交



敬老祝賀会

流を深めています。もちつき大会（年一回）、文化祭（年一回）、大運動会（二年に一回）、グラウンドゴルフ大会（年一回）、健康ウォーク（年一回）などまちづくり協議会に関わる事業は、岩倉地区全体で取り組み、すべての住民の交流と親睦、よりよい安全で安心なまちづくりに役立っています。

岩倉地区は、古いまちと新しいまちが混在している「新しいまち」です。一層住みよいまちにしていくために今後も活力ある活動を進めていきたいと考えております。



平成29年度

## 全国自治会連合会大阪府東大阪大会に参加して

11月9日大阪市の松下IMPホールで北海道から沖縄県の都道府県役員、事務局合わせて1,100名の参加で開催されました。

式典では開催地実行委員長、連合会長の挨拶、内閣総理大臣のメッセージの後、自治会活動に顕著な功績ある84名が全国自治会連合会会長表彰を受けられました。鳥取市自治連合会の南部敏副会長もこの表彰を受けられたこと大変名誉に思います。大会宣言「全ての同志と連帯を広げ、限りなく前進することを誓う」を採択しました。

活動発表として、東大阪市自治協議会の活動や東大阪まちづくりものづくりの現在・過去・未来について「ええ～ストーリー東大阪」と題して画像（映像）や音楽でわかりやすく大阪のノリで語ると言う手法で、歴史から紐解き、現在の安心安全な地域をめざして、犯罪抑止の青



パトロール活動を日本財団と提携してやっていることなど、非常に積極的に取り組んでいる様子を伺う事が出来ました。

日本でも有名な技術力を誇る中小企業の集まる東大阪の活力の源がここにあるに違いないとの感じを一層強くしました。積極的にチャレンジする精神を持ち続けることが人を守り自治を守る根幹になると信じます。

（報告 下澤 理如）

国府地区

みんなで参加！  
みんなで楽しく！

宮下自治会  
会長 井上豊明

宮下地区は鳥取市の東側に隣接し、袋川の清流に恵まれた自然豊かな田園地帯であり、万葉ロマンと文化の風香るのどかで美しい風光明媚な地区である。一、四四九世帯人口三、七三一人（平成二十九年三月末現在）で、十七自治会でありたっています。

宮下まちづくり協議会は、地域で暮らす一人ひとりが元気で明るく、安全で安心して暮らしていける地域社会を築くための取り組みとしてス



花いっぱい運動



納涼七夕まつり

- ① 特徴ある地域づくり部会では、地区を「文化の風香る万葉のふるさと」として位置づけ、有形文化史跡の保全、保存活動の実施。
- ② 生活環境部会では自治会、関係団体と協力し防災活動、防犯活動を行い安心、安全なまちづくりを行う。又恵まれた豊かな自然環境の保全活動を行い美しいまちづくりの実施。
- ③ 文化健康部会ではスポーツ、文化活動の推進。地区の史跡を巡り見識を深め、地域を再認識し健康増進を

平成二十九年 三市姉妹交流会報告

さる九月二十二日、岡山市連合町内会・姫路市連合町内会・鳥取市自治連合会の三市姉妹交流会が日本最古の脳、弥生人の脳が発見された青谷町での要望があり五十五名の参加のもと青谷町総合支所を主会場とし開催されました。

はじめに、三市会長挨拶のあと青谷町総合支所長様より来賓祝辞をいただき第一部協議に移りました。

第一部 姫路市は自治会を取り巻く諸課題解決に向けた取り組みについて、岡山市は地域行事に参加することで一体感の醸成や町内会の加入促進活動について、鳥取市は自治会加入促進への取り組みについて、それぞれ発表されました。

活発な意見交換が行われ、社会状況とはいえず特に高齢者人口が急激に増加していく中で自治会組織、活動の在り方については共通の悩み、課題として大きくクロスアップされました。

第二部は昼食会場をもちべ伝承館に移し、地元婦人部で組織するおまめの会の地元食材

を図る。又伝統文化の保存、継承活動を行い、地域を愛する心を養うまちづくりを行う。

この取り組みを一層充実させ、着実に積み上げて一人ひとりのつながりを大切にした住みよい地域づくりを目指しております。

編集後記

昨年十一月、今治市連合自治会が総勢五十一名で来鳥され、意見交換会がありました。自治会運営、防災、環境衛生、福祉活動と幅広い分野で、予定の二時間を超える充実した会となりました。自治連だより第二十四号は、八地区の地域活動を紹介させて頂きました。急な原稿依頼にも関わらず、快く応じて頂きありがとうございました。各地区とも、伝統行事や伝統芸能を大切にされ、地区の特性を活かした取り組みをされています。大変参考になりました。（広報委員長 土橋周美）

を中心にした手づくり山菜料理をいただき、特に山菜おこわは美味で交流に花を添えました。第三部 視察研修「青谷上寺地遺跡発掘場」「青谷上寺地遺跡展示館」「鳥取県埋蔵文化財センター青谷調査室」各担当者から説明を受け、弥生時代青谷上寺地遺跡地は海に面した集落であったこと、出土品から中国や朝鮮半島との交易があったことなどが分かり歴史の深さ重さを痛感し視察先として多くの参加者が満足されたと思います。最後に縁結びの神様であるといわれる「白兎神社」に参拝し三市の絆を一層深め、次年度開催市姫路市であることを確認し最後に渡邊会長がお礼の挨拶を述べ閉会としました。（副会長 南部 敏）

